

新潟県

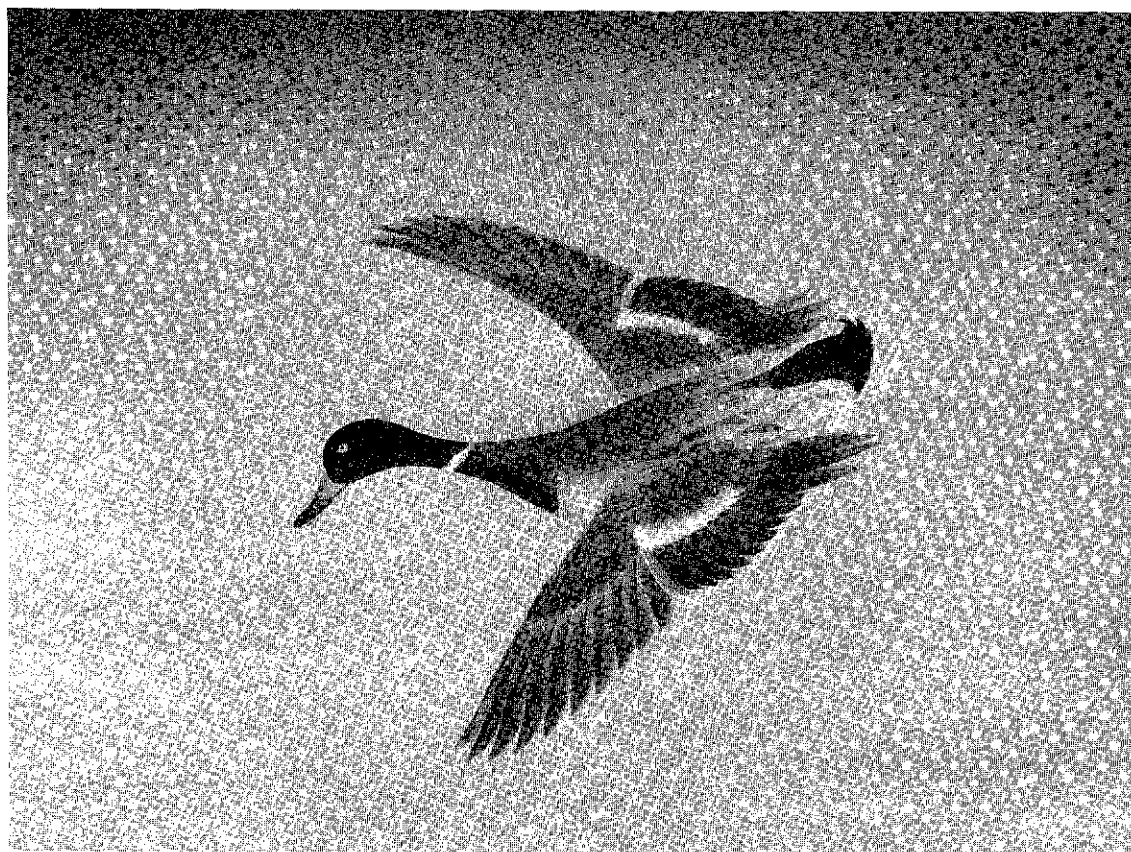
平成2年

# 公民館月報

5月  
第447号

## 公民館事業入門(2)

——学級・講座の問題点——



小林古径 「飛鴨」  
1930年（昭和5年）  
紙本彩色軸装  
80.5cm×121.5cm  
新潟県美術博物館所蔵

小林古径（1883～1957）は上越市出身。再興日本美術院では、安田靉彦・前田青邨とともに三羽鳥といわれた。美しく張り詰めた線を駆使して、気品高い作品を描き、新古典派といわれる作風を作りあげた。「飛鴨」は古典に範を求めたもの。墨と色彩が美しい調和を奏でており、風を切って飛ぶ鴨の姿が凜として描かれている。

# 第 1 回 評 議 員 会 開 催

## 平成 二 年 度 事 業 始 動

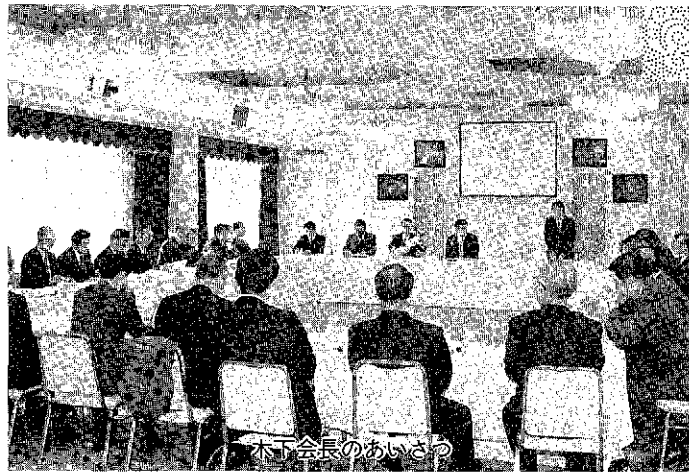
# 会 長 に は 木 下 清 一 氏 留 任

## 新 規 事 業 2、 検 討 事 項 2

平成 二 年 度 第 一 回 評 議 員 会 が 去 る 四 月 二 四 日、新 潟 市 平 安 閣 を 会 場 に 開 催 さ れ た。

会 議 は、平 成 元 年 度 の 会 務 報 告 並 び に 決 算 見 込 み、続 いて 今 年 度 の 事 業 計 画・予 算 案 の 審 議、役 員 改 選 な どの 諸 議 案 が 円 滑 裡 に す す め ら れ た。

事 業 計 画 で は、恒 常 的 な 事 業 の 他 に、二 つ の 新 規 事 業 と 二 つ の 調 査 や 検 討 事 項 な ど 盛 り た く さ ん の 事 業 が あ っ た。



木下会長のあいさつ

中 で も、来 年 度 開 催 の 関 東 甲 信 越 静 公 民 館 研 究 集 会 の 主 管 県 引 き 受 け の た め の 準 備 委 員 会 の 設 置 に つ い て は、全 県 的 協 力 態 勢 を 望 ん で い た。

会 終 了 後、会 費 持 ち 寄 り に よ る 懇 親 会 が 開 催 さ れ、和 や か な 談 笑 の 間 に 交 流 を 深 め あ っ た。

出 席 評 議 員 三 十 三 名、欠 席 二 名 (い ず れ も 委 任 状 あり) で 開 催。

来 賓 に 県 社 会 教 育 課 長 西 尾 典 眞 氏、同 公 民 館 担 当 副 参 事 関 吉 彦 氏、下 越 教 育 事 務 所 社 会 教 育 課 長 岩

田 伸 氏、同 副 参 事 菊 池 三 男 氏 を 迎 え 定 刻 に 開 会 し た。

開 会 の あ い さ つ に 立 っ た 木 下 会 長 は、今 年 度 は、四 〇 年 誌 の 刊 行、関 プ ロ 公 研 集 会 主 管 県 と し て 準 備 を 進 め る 年 (平 成 三 年 九 月 開 催) で あり、県 公 連 を あ げ て の 協 力 態 勢 を お 願 い す る。

さ ら に 今 年 度 は、公 民 館 長 研 修 の 必 要、県 公 連 干 事 部 会 結 成 の 必 要 な ど に つ い て 十 分 意 見 交 換 を 図 る 年 に す る な ど、盛 り た く さ ん の 内 容 が あ る の で、よ ろ し く お 願 い し た い と あ い さ つ。

続 いて、来 賓 の あ い さ つ で 西 尾 社 会 教 育 課 長 は、去 る 一 月 三 十 日 に 出 さ れ た 中 教 審 答 申 に ぶ れ、近 く 法 案 が 成 立 す る 運 び に な る の で 注 目 し て い て ほ し い こ と。次 に、来 年 度 に 実 施 さ れ る 関 東 甲 信 越 静 公 民 館 研 究 集 会 に つ い て は、県 も できる 限 り の 協 力 を す る と 力 強 い あ い さ つ が あ っ た。

来 賓 紹 介 に 続 いて、議 長 選 出 に う つ り、中 頸 城 郡 板 倉 町 公 民 館 長 武 藤 眞 一 氏 を 選 出 し て 議 事 に 入 る。

### 審 議 事 項

- 1、平 成 元 年 度 会 務 報 告 並 び に 歳 入 歳 出 決 算 見 込 み に つ い て、報 告 の と お り 承 認
- 2、役 員 改 選

会 長 は 留 任 〓 新 潟 市 中 央 公 民 館 長 木 下 清 一 氏。他 の 役 員 の う ち 副 会 長 は 上、中、下 越 地 区 公 連 の 会 長 (下 越 は 副 会 長) を 選 任、監 事 は 各 地 区 一 名 の 選 出 者 を 選 任 す る こ と と な っ た。な お、理 事 に つ い て も、上、中、下 越 地 区 か ら の 推 薦 者 を 会 長 が 委 嘱 す る こ と に な っ た。

よ っ て、近 く 開 催 さ れ る 各 地 区 公 連 評 議 会 で 推 薦 さ れ る 役 員 候 補 者 を も っ て 選 任、又 は、委 嘱 さ れ る こ と に な る。

- 3、平 成 二 年 度 の 基 本 方 針・重 点 目 標 事 業 計 画 並 び に 歳 入 歳 出 予 算 案 は 執 行 部 原 案 の と お り 可 決 さ れ た。

平成 二 年 度 歳 入 総 額

二、七五、九八円
二、五四、七五円
前 年 度
二、三三、三六円

差 引 増

- 4、新 規 事 業
- ① 県 公 連 四 〇 年 誌 の 発 行
- ② 関 プ ロ 公 研 集 会 準 備 委 員 会 の 発 足

な お、公 民 館 長 研 修、公 民 館 主 事 部 会 の 結 成 に つ い て、検 討 の 年 度 と し 調 査 活 動 や 意 見 交 換 を す る こ と に な っ た。

# 公 民 館 関 係 法 令 ・ 解 説

## 新 任 の 公 民 館 職 員 の み な さ ん に お す す め す る 必 携 の 一 冊 !

### ◎ 内 容

教 育 基 本 法・社 会 教 育 法・社 会 教 育 法 施 行 令・公 民 館 の 設 置 及 び 運 営 に 関 す る 基 準 規 程・通 達 「公 民 館 基 準 の 取 扱 い に つ い て」 解 説 つ き。

A 5 判 34 ペ ー ジ 1 部 300 円 (送 料 未 費)

### ◎ お 申 し 込 み 先

〒 951 新 潟 市 川 端 町 2 - 9 県 林 業 会 館 内 県 公 民 館 連 合 会 事 務 局 電 話 025 (224) 6 0 7 3



# 門 (2)

点  
務長 徳間 助夫

11月14・15日にお  
担当助言者が問題



徳間助夫氏

公民館の数ある事業の中で、メインになるのは学級・講座の開設である。今流行の「生涯学習」推進のうねりの以前から、生涯の各期にわたる学習の課題を、それぞれの地域の生活の中から取り出し、プログラミングし、学習活動にうつしてきた。だから、それは教育産業の学習には望むことのできない、公民館ならではの学習活動でなければならぬ。

そのような定期講座にするには公民館職員の専門的な資質によるものであるという認識で当第二部会は研修に取り組んだ。

## はじめに

第二部会では、集合学習の問題つまり、学級・講座の開設に関する企画運営についての問題が取り上げられた。

受講者は、男 4、女 2 の計 6 名で、年齢階層では 20 歳代 30 歳代 40 歳各 2 名ずつであった。さらに、公民館職員としての経験年数では、2 年 4 名 3 年 2 名と等質的なメンバーであった。あらかじめ提出したレポートの内容は、「学級・講座等の企画運営」があげられていた。

- 部会での話しあいに入ってから、この点に関する具体的な問題・切実な問題が提出された。以下その内容を次に紹介する。
- 学級・講座等の開講案内を広報しても、なかなか受講生が集まらない。
- 事業への参加者が、年々減少してきている。
- 受講生が固定化してきている。
- 自主運営グループを、どのように育成していったらよいか。
- 住民の学習要求をどのように把握したらよいか。
- 話し合い学習の具体的な進め方について知りたい。
- 新規事業を導入する際の問題点と留意点は……。



1日目の話しあい

上げるテーマとして、次の三点が選ばれた。

- 一、自主運営グループをどう育成するか。
- 二、住民の学習要求をどのように把握したらよいか。
- 三、魅力ある学習内容をどう企画するか。

## 自主運営グループを、どう育成するか。

第一のテーマである「自主運営グループをどう育成するか。」についての 討議で交わされた主な発言について、助言も含めて紹介する。

○ I 市では、公民館利用団体協議会の事務局の仕事で、従来は公民館がすべて 担当してきたが、住民にまかせる内容

を具体的に検討し、逐次住民にまかせるようにし、しまいに事務局の仕事一切を住民にまかせるようにした。

○ まず小グループの育成か、それとも利用団体連絡協議会の結成か、という問題提起もあったが、それぞれの公民館の状況に応じて、ケースバイケースで弾力的に対応すべきではないか、ということであった。

○ 学級生の成長に応じた正しい対応の仕方が大切ではないか。

○ 自主運営グループを育成するにはリーダーの発掘と養成が大切で、学級・講座等の運営をおしてリーダーの発掘と養成がされねばならない。

○ 新しいリーダーは頭を叩かれやすい。公民館職員は新しいリーダーの防波堤となつてやらねばならない。

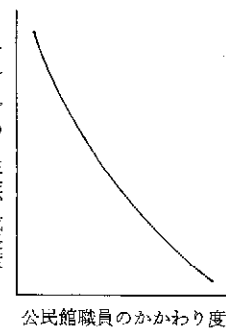
○ やった、終わった、よかった、だけでなく、次の発展へのアドバイスを与えることが大切。

○ 学習の成果を地域づくりに活かすきっかけをつくり、より大きな人間的な喜び、満足感を感じさせ、それを広報してやるのが、自主的運営グループの成長を促すこととなる。

○ 学級・講座名等の成長発達に応じた正しい役割分担と費用

分担当、自主運営グループ結成への気運と自信を高める。

○ グループの自主性と公民館職員の関係を図表化すると、次のようになるのではないかと、



つまり、グループの自主性成長度と公民館職員のかかわり度は反比例する。グループの成長度が低いと公民館職員のかかわり度は大きく、グループの成長が高まるにつれて職員のかかわりが少なくなっていくことを図表にしたものである。

## 住民の学習要求を、どのように把握したらよいか

第二のテーマである「住民の学習要求をどのように把握したらよいか。」について演習の内容は次のとおりであった。

まず「住民の学習要求を把握する。」ための実践事例として次のような事例があげられた。

○ 学級・講座等の実施の都度アンケートを行った。

○ 住民の抽出調査を行った。(毎年の実施は難しい。)

# 公民館事業入

## 学級・講座の問題

執筆担当 元柏崎市中央公民館事

本会主催の公民館職員研修(平成元年ける部会演習で討議された内容をもとに解決の方向を示唆したものである。

○館内に投書箱を設け、半年毎に集計したが、趣味的なもののみ多くあまり役に立たなかった。

○次年度予算を編成する前に運営審議会を開いて、住民の学習要求を把握するようにした。これらの実践事例を参考にし、これからの改善策について次のような話し合いがおこなわれた。

○運営審議会の活用にあたっては、会議での話し合いのみでなく、会議の前にアンケートかレポートを提出してもらい、それらの集計結果を参考に会議で検討した方が、より効果的なのではないか。

○また運営審議会委員が所属する団体(子ども会育成会、PTA、青年会、婦人会、老人クラブ等)で、委員が中心となってあらかじめ夫々の団体ごとで、住民の学習要求についての話し合いと集約を行い、審議会では各委員から発表してもらい検討するような努力も必要なのではないか。

○アンケートの内容は、ただ単に学習内容や方法のみでなく、毎日の生活で困っていることや、地域をよりよくするための問題点等も内容に取り入れた方が、より有効なアンケートとなるのではないか。

○アンケートは実施方法によって、住民の問題意識と学習意欲を高めるために役立てることが出来る。

○学級・講座等の実施の過程でたえず学級生の学習要求を把握しようとする努力が大切で、そのためには講師の講義を聞くという学習方法のみでなく、学級生同志が生活課題や地域課題をみんなで話し合う「話し合い学習」がもっと積極的におこなわれねばならない。

○話し合い学習における「話し合い」は、とかくキレイごとテーマエゴとなり勝ちだが、学級生がおおらかにホンネとヨワネを出し合わなければ



第2日目のまとめ

ば、その成果は期待できない。

○話し合い学習で学級生がおおらかにホンネとヨワネを出し合うためには、学級生相互の人間関係、信頼がなければならぬし、職員自身の「ひとりの人間」としてのホンネとヨワネが、学級生の心の扉を開かせホンネ、ヨワネを誘発させるのではないか。

○話し合い学習を単なる「クドキ合い学習」とするか、価値ある「話し合い学習」とするかは、職員や指導者のリードに影響されるところが大きい。

**魅力ある学習内容をどう企画するか**

第三のテーマである「魅力ある学習内容をどう企画するか。」

について行なわれた演習の内容は次のとおりであった。

まず「魅力ある学習内容」とは、どんな学習内容なのか、について話し合った。

○もっと毎日の生活に役立つ学習内容でなければならぬ。

○キレイごとやテーマエゴとなく、毎日の生活で困っていることを解決するために役立つ、毎日の生活や地域をよりよくするための学習内容でなければならぬ。

○毎日の生活をよりよくし、困っていることを具体的に解決するために役立つ学習であるためには、もっと毎日の生活の中での具体的な事例を中心に、その具体的な解決方法を学級生自身がみんなで考え、話し合うという学習方法も大切なのではないか。

○過疎化の著しいT町では、「どうしたらこの町で生きていけるか。」をテーマに、「夜なべ討論会」を実施したところ、かつてない盛会で好評であった。

○単身赴任者が増えているN市では、「ひとりぐらしのための講座」を開講したところ、きわめて好評であった。

○地域に無関心の青年が増えているN市のある地区では、地区内の青年たちによる「地域

の将来を考える集会」を開いたが、青年たちが地域のことを考え、話し合うきっかけとなった。

○「魅力ある学習内容」とは、住民の生活と地域に根ざした学習内容。

住民の生活課題の解決に具体的に役立つ学習内容。

住民の生活と地域をよりよくするための学習内容。

住民自身が、みんなで生活課題、地域課題を発見し、解決の方法を自分たち自身で見出せるような学習内容。

住民が仕事を休んでも出席したいと思うような学習内容。

そんな内容なのではないか。

○学習内容の表現にあたっては、もっと住民にアピールするような表現をしようとする努力が、積極的になされねばならないのではないか。

**おわりに**

県公連が久しぶりに県内公民館職員研修に取り組んで、今年三年目になる。

長い間公民館に勤務した私の志気と資質と思ってきたし、現在もこの思いは変わらな。参加された諸君の今後の活躍を心から期待したい。

# 明日の村のリーダーよ育て

## せきかわふるさと塾は今!!

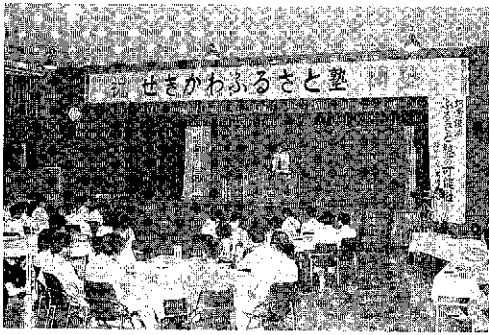
### 関川村公民館

#### ・村の概況

関川村は京都新潟市の北東約六〇キロメートルに位置し、山形県の西置賜地方小国町に隣接している。

面積は三〇〇・〇三平方キロで、東京二三区の半分以上に当たる広い面積を有している。

荒川流域の一部を除き、起伏が激しく、約八十八パーセントは山林原野で、飯豊連峰、朝日連峰、



柳形山脈に囲まれた盆地である。村の中央を一級河川荒川が流れ、その支流沿いに五十四の集落が点在している。

村内の交通機関は、東西に一三号線、南北に二九〇号線の二本の国道が走り、それに平行してJ.R米坂線が走っている。

#### ・ふるさと塾

昭和六十一年度に第三次総合計画策定に取り組んだ際、村の関係役職者名簿のメンバーが十五年前とはほとんど変わっていないことに気づいた。これではないのか、もしこの人たちが現在の役職を退くことになったら、誰が後継者になるのか、そんな危機感を覚え、昭和六十二年に「せきかわふるさと塾」を企画

財政課と社会教育課が連携をとりながら発足させた。開塾にあたり塾生を募集したところ八十四名の中し込みがあった。当初は三十名位の小グループでスタートする予定であったが、予想以上に集まってくれた。塾の名は関川村に欠けていることを関川の頭文字を取って定

義づけた。積極性を高めようの「せ」。郷土を愛するの「き」。語り合うことの「か」。若者を育てようの「わ」。これが「せきかわふるさと塾」の名前の由来である。

一期三年間の一年目は、関川村に住んでいながら村を知らないのでは前進はないことから、「関川村を知ろう」をテーマに

講義中心の学習会を開催した。内容は村の歴史、文化、観光、産業等多方面にわたり、村内の専門家を招いての学習会であった。内容は豊富で、見る角度によつて物の見方、考え方が異なるにも差があるものと私自身痛切に感じた。

塾生の中からこんな意見が出た。「今まで自分の村に対する知識の無さで、村全体を小さく見ることしかできなかった。参加するごとに村がだんだん大きくなっていくような気がします。」

二年目はよそを知るための学習、三年目は学習の成果をもとに実施する、というのが最初の計画であったが、この二年目に



一挙に実践まで行ってしまった。「大したもん蛇まつり」をこのふるさと塾が中心となって実施したからである。

・大したもん蛇まつりのあらまし

村始まって以来のこのまつりは、村の伝説「大里峠」と多くの犠牲者を出した羽越水害の二つをテーマにイベントを組んだ。竹とワラで八十メートルの大蛇を製作するため、全体を五十五に輪切りにして、全集落ごとに製作してもらった。重さ約一トンの大蛇を村内二十軒にわたり延べ千五百人が参加して練り歩いた。喜喜(キッキ)大会はジャンケンの中で、村民全員参加できるイベントでこれに優るものはない。たかがジャ

ンケンであるが武道と同じように作法を定めた大会である。トーナメント表は世界一長いものになり、チャンピオンを決めるのに、一カ月半かかった。そのほか、「大名膳」の復元、自然を活用した民話劇、村内小学校児童全員が手作り楽器を主体に演奏した手作りオーケストラ、燈ろう流し、歌謡ショー、と三日間にわたって実施した。

開催に至るまでには塾生が夜遅くまで各集落を指導して回ったり、何度も何度も企画会議が行われ侵食を忘れて準備に没頭した姿は今でも忘れられない。

このイベントを通じての活動は人材発掘につながった。中心となった塾生も当然自信を持って同時に塾生どうしのつながりが極めて密接になった。

このような実践活動で塾の二年目はほとんどイベントに費やした。

そして最終年の三年目は塾生から提案された課題ごとに分かれ、活発な話し合いを行っている。その中の嫁・むこ部会はすでに東京から女性を村に招き、交流会を実施している。

どのような効果が現れるか期待は大きい。真剣になって村の将来を考えている姿勢に意義が大きい。関川村社会教育係長 伊藤泰雄記



# サークル交流

## サークル活動で学んだこと グループ・コアラッコ

この会は、親子で遊んだり、育児学習をする会として出発し、子供の成長に伴い次第に母親の学習中心の会になりました。

前年度は、公民館と共催で家庭教育セミナーを開きました。企画から運営まで携わる中で試行錯誤を繰り返して、又公民館職員の方の助言を受け、話し合いを重ねました。又、会に黒岩稚子さんをお招きし、日頃の悩み等、膝を付き合わせて話し合いました。これらによって学んだ事は、子育ては、自分自身の生き様



グループコアラッコ

を見せること。話し合いの大切さとその事で自分が変わることに。(成長何でも言える素晴らしい仲間がいること。そして、今回初めて母子分離をしたのですが、二時間が何と集中できた事が子育てまっ盛りの今こそ母親も学び成長する事が必要であり、それを助けて下さる保育ボランティアの方に感謝しました。こういう社会参加がある事に今後も目を向けて、仲間と活動していきたいと思えます。

(新潟市鳥屋野地区公民館利用サークル 安田貴世美記)

### こんな集まり楽しいです 自主学習サークル研修会

研修会などと大そうな名前がついていますが年二回の交流会で、私達自身の手で運営します。私達は殆どが公民館主催の「親も育つ子育てセミナー」修了生です。毎年講座がおわるとグループがひとつ誕生します。今では十八、最も先輩は昭和五十三年の修了生です。

はじめのうちは先生方がいろいろ知恵を貸してくださいます。がだんだん種切れになります。先輩の会の様子をきくのはとて



サークル研修会

も勉強になりますからこの集まりは貴重です。中には、子供が大きくなって働きに出る人がふえ、会員が減るので合同で勉強会をしよう……などと相談がまるとまることもあり、なるほどと思いました。

春は仲良くなるための楽しいイベントでフォークダンスや豚汁パーティー、秋は情報交換と講演会でしっかり学習します。昨年は、和光大学井上輝子先生の「女性詩に描かれた女性」とも考えさせられました。

(長岡市中央公民館利用サークル 明日芽の会 中川忍記)

### 原稿募集!!

あなたのサークルを紹介しませんか! 本文四百二〇字程度に写真一枚を添えて、送り先は八面下段の事務局へ

### 大潟町公民館社会教育指導員

間山泰子さん(40歳)



育担当としての感想をきいてみました。乳幼児期の

昨年十月より勤務していただいた。彼女は幼稚園教諭の経験がありお話が上手。着任してわずか半年ではありますが、温かい人柄で終始にこやかに応待し来館される地区民に親しまれています。主たる仕事の内容は、幼児家庭教育学級の計画立案とその運営、それに公民館図書係

家庭教育は学校教育社会教育につながる生涯教育の起点としてとても重要です。親として配慮すべきことがらを学習し、親子が楽しくふれ合えるような講座にしたい。そしてよりよい家庭のあり方をさぐっていただきたいものだと心くばりをしていきます。

終始笑顔で応待する中に、指導員としての真剣さが伝わってきました。

今後より一層のご活躍を期待しています。

大潟町公民館長 渡辺 之夫記

### 素顔 拝見

### 小千谷市公民館社会教育主事

久保田千昭氏(30歳)



代の先端をわが身のもとにしてきた。

久保田君は知性をバックにしたアイデアマン、ファイトマンで、小千谷市公民館のホープである。大学時代に社会教育主事の単位は履習したが、新卒の都合上他部局に勤務、五年前に念願の公民館勤務となった。私とは四年間同勤であった。理論の背景をもち、実践の先達となり、職員の先頭をきってくれた。彼はまた一児の父であるが、自ら求めて国社研の研修に参加、長期家庭を離れたり、県公連、県社教の催事にも積極参加。常に時

元年度末三月に、シリーズ「雪とふるさと」を、十一回にわたり集中講座。克雪、そして雪からの発想転換を画し、市内外、東京からも講師を招き、ソフト面からのまちづくりに多大の成果を取めた。これも彼なせる業であった。公民館のなす生涯学習は、更に彼の研鑽を期待して止まない。

前小千谷市公民館長 篠田朝隆記



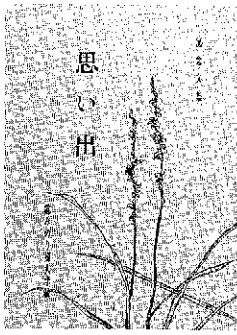
### 三十周年を迎えた

## 雷みのり婦人学級

山北町公民館

山北町公民館の雷みのり婦人学級は昭和34年に開設され、以来30年にわたり、雷小・中学校の先生方の協力を得て今日まで続いてきた。平成2年3月には30周年を記念した文集「思い出」の刊行。また閉級式には歴代の会長を招へいして、先輩と「語ろう会」を開催した。午後六時から始まった「語ろう会」では、

「子どもが小さかったのでおんぶして学級へ出席した。」とか、「子どもが泣くので立ったまままで講義を聴講した。」あるいは、「みんなと話している」と、来てよかったノという気持ち、出席しないと損をした気持ちになったものだ……」などと思えばいつ果てるともな



### ご惠贈資料紹介②

- 上越市立公民館
  - ・市民菜園(成人対象事業)
  - ・友愛訪問者育成講座
- 三条市中央公民館
  - ・休肝口セミナー(成人教育)
  - ・生涯生活設計セミナー
  - ・三条市本成寺公民館他
  - ・青年教室(地区公民館の連携合同事業)
- 十日町市公民館
  - ・十日町青年学級
- 見附市中央公民館
  - ・見附市青年活動研究集会
- 中公音楽セミナー
  - ・村上市中央公民館
  - ・中学生の集い、リーダー研修会
  - ・立志元服式
- 両津市公民館
  - ・地域開発講座
  - ・市民チャリティカラオケ大会
- 頸城村公民館
  - ・青年講座
  - ・乳幼児家庭教育学級
- 頸城村南川地区公民館
  - ・地区館球技大会
  - ・グランドゴルフ初心者教室

### 推薦図書

佐々木 実 著 **公民館運営一問一答集**

A五判二八八頁 頒価一、九〇〇円(送料三一〇円)

全国公民館連合会 著 **公民館のあるべき姿と今日的指標**

A五判三四〇頁 頒価二、五〇〇円(送料三一〇円)

岡本包 治編著 **公民館活性化への途**

A五判二四五頁 頒価二、三六九円(送料三一〇円)

徳間助夫 著 **公民館日記**

四六判三〇〇頁 頒価一、八〇〇円(送料二五〇円)

西ヶ谷 悟 篇 **公民館事業のすすめ方**

A五判一四二頁 頒価一、〇七六円(送料二二〇円)

新任の公民館職員のみなさんにおすすめる一冊。いずれも、本会事務局で取扱っています。購入のむきは、電話で一報ください。

### 原稿募集

公民館歳時記(三面)の原稿を募集しています。

肩のこらない気楽なコラム欄です。花鳥風月をめぐる随想とか、季節に応じた公民館の動きなど自由にお書きください。

投稿対象は、本紙の読者ならどなたでも結構です。掲載の分には粗品を謹呈。字数は七五〇字程度(顔写真添付)。送り先は八面左端の本会事務局へ

### あとがき

大型連休も終り、世間はようやく平靜に戻りました。公民館の仕事は因果なもので、世間の浮かれる休日が多忙を極める時期。さぞ忙しかったことでしょう。休む間のない次の事業へ。ご苦勞さまです。(上村記)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】  
【電話・新潟(025)224-6073】

発行人 会長 木下清一

編集人 事務局長 上村捨二郎

【定価1部120円 年共・年価1,440円】